

国際探究 I 「国際探究ガイダンス」

(日時) 平成27年4月23日(木) 6・7校時

(場所) 本校大体育館

(対象) 1年生全員

(目的)

- ・ 課題研究活動の開始にあたって、活動ファイルと活動ガイドブックを配布し、年間の具体的な活動計画を把握する。
- ・ 研究テーマである世界の「食糧問題」とは何か、様々な問題を内包した地球規模の社会問題であることを知る。

(形態) 大体育館にて学年集会形式で実施

(内容) 「国際探究ガイダンス」及び基調講演

○ガイダンス：SGH事業主担当 腰山潤

・本校作成の「活動ガイドブック」を配布し、年間活動計画の概要説明



○基調講演：「グローバリゼーションと食糧問題 その見方と考え方」

講師：秋田県立大学生物資源科学部生物環境科学科教授 長濱健一郎先生

- ・ グローバリゼーションと食糧問題—その見方と考え方
 - ・ グローバル化ってどういうこと？
 - ・ グローバル化は、経済・ビジネスの世界で進んでいる
 - ・ グローバル化は経済分野だけではない
 - ・ グローバル化と食糧問題—食糧は足りているのか？
- ・ 見方と考え方①—なぜ食糧が足りない国が存在するのか
 - ……食生活の違いと新たな変化
- ・ 見方と考え方②—世界中で同じような農業ができるのか
 - ……旧大陸型農業（ヨーロッパ型、東アジア型）、
新大陸型（アメリカ、オーストラリア、カナダ）、熱帯農業

農業は「風土」に大きく影響をうける産業

+世界の水事情

- ・見方と考え方③－誰が食糧貿易を担っているのか
……穀物メジャー
- ・見方と考え方④－私たちが食糧不足を生み出していないか
……食べ残し、日本の食糧廃棄量
- ・見方と考え方⑤－食糧と食文化「和食」
- ・見方と考え方⑥－秋田の農業・食文化
- ・まとめ：「こまちの里」秋田の高校生が「地球村」の食糧問題解決に挑む！
……L o c a lとG l o b a lの視点



【生徒の振り返りから】

・私が最も気になったのは、人材、もののグローバル化です。ものがグローバル化されたのなら食糧問題は解決しているはずですが、現在、世界には栄養不足で失明したり、餓死する人がいます。それは先進国で大量購入、大量消費しているからです。私たちが少し気をつけて生活すれば救われる人が大勢いるのかもしれませんが。これからの生活の中で私にできることがあればやっていきたいです。

・今の生活が私はとても幸せで、ずっとこういう環境で生きていきたいです。しかし、本気で発展途上国を救うためには、今の生活を下げなければいけません。何かいい方法はないのか。考えていけるSGHの活動がとても楽しみです。一人では思いつかなかったアイデアがグループになることでふくらんでいくこと、もっと世界の現状を知ること。中学校では経験できなかった様々なことを行えると知りうれしいです。頑張っていきたいです。

・特に印象的だったのは、「日本はどのようにアメリカ・オーストラリアのような大規模な農業をしないのか」という問いについてです。私は今までずっと「土地が狭いから」とだけ思っていました。でも長濱先生は「アメリカなどは砂漠だから雑草が生えないからできる」おっしゃっていました。逆に新大陸は雨が降らず作物を作りにくい、という話もあり、人間はあくまでも自然の中に生きているのだと感じました。

・講演を聞いて、グローバル化することでメリットだけではなく、デメリットもあるということに驚きました。私はグローバル化という言葉を聞くとプラスなイメージをもっており、デメリットなど考えたことがありませんでした。……自分はグローバル化には賛成です。しかしグローバル化になったことで不利な国ができるのは本末転倒だと思うので、もう一度よく考えよう

と思いました。

・今のグローバル化の目線で考えると、同じ地球に住む人類としてこんなにも格差があってもいいのかと不思議に思えてくる。そんな格差があるからテロ行為があとを絶たないのではないか。しかし「世界平等にみな平和」という考えでは、世界の発展は著しく衰えてしまうと思う。だから、現状とこれからの未来を考えて、先進国と発展途上国のあるべき姿をこれから調べていきたいと思いました。

・グローバル化により「和食」という「もったいない」や「ヘルシー」などで健康的であると評価された日本がまさか廃棄物がアメリカよりも多く、その総額が合計1兆円もかかっていることにとっても驚きました。「もったいない」という意識があるというのに、なぜこのような廃棄物がたくさんでなのか疑問に思います。

・今回の講演で驚いたことは、SGHのグループ活動で話し合い出された意見とは違った視点の問題が出されたことです。たとえばグループでは食糧が砂漠化などによって生産できなくなり不足しているという意見が出ました。しかし講演では食糧は足りているが、それが世界中に行き届いていないということでした。

・もし私たちの考えた案の中から、実際に実行できるものがあつたとしたら、きっと複数の国の協力も必要になってくると思います。そういった協力を求めるとき、相手の国とのコミュニケーションをとるため英語力を身につけることはもちろん、その国の文化や歴史を理解することで、各国にあつた協力の仕方を提案できると感じました。そのために、英語だけでなく、他国の文化や歴史にも少しずつふれて、たくさんの国のことを理解したいです。

・どうするか考えるだけでなく、それを行動に移さなければならないので、まずは自分が。そしてまわりをまきこんでいきたいです。

・せっかく、グローバル化という考え方が出てきたのだから自分の国を優先してしまう気持ち、考えをおさえて、自分たちは地球の民であつて、満たされている人も貧しく苦しんでいる人も仲間であると思つて、国どうしではなく、人同士が助け合い、共存することが大切だと思つました。

